

2024.3.11 発行

# MARUNAKA TIMES

第43号

## 竣工 第22-41310-0297号河川海岸改良(改良)工事(護岸)



最後はバタバタになってしまいましたでしたが、無事工事を終えることができたのもみんな力で合わせられたからだと思えます。ご協力感謝致します。

常々現場で細かい事を言っていてめんどくさがられる私ですがみなさんがそれに承えてくれた事が良い物作りとなり、結果良い評価が付いてきたと思っています。

今後も皆で同じ方向を向き、建設業を通して地域に貢献できるように一緒に励んでいきましょう。

大内 健太



マルナカスタイル

# サラメシ 新企画

サラリーマンの屋メシ、略して「サラメシ」TVで人気の企画ですね。マルナカでも始めます！初回はどんなのかな？？

### 第1回 ジョンくん(肉編)

上の2つは肉炒めでしょうか？ごはんとスープ・野菜サラダもついてバランスがよさそうですね。

下はソースかつ井かな？ボリューム満点、午後の仕事も頑張れそうだ！ジョンくんは写真の撮り方も慣れてるね(^-^ )おいしそう♪



# 社長のつぶやき



カンボジアで育ったイチゴ達です。凄いですよね？

写真では分かりづらいと思いますが、素晴らしいイチゴが実りました。

このイチゴを見たカンボジアの人達は、その味・大きさ・品質に、大変驚いていたそうです。

念願の海外でのイチゴ栽培も、少しずつですが形になって来ました。

誰もが難しいと言っていましたが、諦めず「新しい事への挑戦」を続けた結果です。

何が素晴らしいかというと「無農薬栽培」だからです。

一般的に日本でのイチゴ栽培は「病害虫との戦い」とも言われるほどで、農薬を散布しての防除が必須となります。（勿論、残留農薬などの問題もありますので、徹底した管理の下防除を行います。）しかし、カンボジアは日本とは環境を始め、すべてが異なります。日本で効果のある農薬が、カンボジアのイチゴに適しているのか？など様々な疑問が生じましたが、そもそも栽培実績がないのですから、答えが出るはずがありませんでした。

それならば、と「無農薬栽培」に挑戦！あの手この手と試行錯誤を繰り返して、なんとか約100kg超えの収穫となりました。これには、現地スタッフも大喜び。来年は今年以上のイチゴを実らせたいと、現地スタッフも張り切っているそうです。自分たちの頑張りが目に見える形となったときに、モチベーションが上がるのは、国や人種を問わず世界共通ですね。

今シーズン「ゆうやけベリー」と共に、TVや新聞などで多数取り上げて頂きましたが、次は「カンボジア初、日本イチゴ」として、カンボジアのメディアに取り上げて貰える日も遠くないかもしれません。

令和五年度の安全標語  
「もう一度  
みんなですべて確認  
その手順」

年度末の忙しい時だからこそ、安全標語を唱えてみましょう。